



# 光和

2月号  
練馬区立光和小学校  
令和8年1月30日

光和小  
携帯サイト



当たり前の日常に感謝し、次への備えと準備を

校長 矢島 直行

「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」といいますが、早いもので年が明けてから1か月が過ぎます。子供たちの登校日数は、修了式、卒業式まで残すところ30日余りです。一日一日充実した学校生活を送ることができるように努めてまいります。

1月20日（火）は「大寒」でした。1年で最も寒い時期ですが、学校の梅の木に目を向けると、白梅は可憐な花を咲かせ、紅梅もふっくらとした蕾を膨らませています。厳しい寒さに耐えながら着実に春への準備を進めています。百花に先駆けて咲く梅の花が「開運」の象徴とされるのは、この寒苦を乗り越える力強い生命力ゆえではないでしょうか。

学校においても、今はまさに「春への準備」の時です。1年生の幼保交流や3年生のクラブ見学、また6年生を送る会に向けた準備など、各学年が次のステップを見据えて動き出しています。

こうした子供たちの活動を支えているのは、何物にも代えがたい「当たり前の日常」です。しかし、この日常は決して当たり前ではないことを私たちは忘れてはなりません。2年前の能登半島地震では、学校が避難所となり、教育の場が一変しました。日々の学校生活が送れることに改めて感謝するとともに、不測の事態への「備え」を強化する必要があります。地震や火災はいつ起こるか分かりません。大切なのは、どのような状況下でも子供たちが「自分の安全を第一に考えて行動できる」力を育むことです。そのためには、日頃からの訓練が不可欠です。

練馬区には区立小中学校を避難拠点として運営するために避難拠点運営連絡会があります。震度5弱以上の地震が起きた場合、学校に避難拠点が立ち上ります。自宅にいられない方や帰宅困難者が学校に避難します。2月14日（土）の学校公開後には、避難拠点運営連絡会主催の防災訓練が行われます。

当日は、①避難拠点運営シミュレーション ②校庭消防訓練が行われます。災害時の情報の集め方、物資のもらい方、災害時に使用する機材の紹介、ペットとの避難方法、けがをしたときの相談場所、寝る場所体験など、校舎を回って体験します。環境安全委員会の子供たちが、各場所で説明を担当します。また、校庭では起震車体験やAED、消火器訓練を行います。子供たちは、「たんけんフェスティバル」として、スタンプを集めながら回り、災害が起きたときの学校の様子を学びます。地域の皆様と連携し、避難拠点の設営や役割を再確認する貴重な機会ともなります。保護者の皆様も都合がつく範囲で子供たちと一緒に積極的に参加し、地域とともに子供たちの命を守る意識を共有していただければと思います。

厳しい寒さの中にも、確かな春の足音が聞こえ始めました。子供たちが新年度に向けて大きく花開くよう、学習・生活のまとめを着実に行い、希望をもって4月の進学、進級を迎えるように準備を進めてまいります。